

スイス海外短期留学体験記（平成28年2月12日－3月12日）

平成27年度茨城県グローバル人材育成プログラム

水戸医療センター 脳神経外科 渡邊真哉

はじめに

この度海外短期留学をする機会を得ることができ有意義な経験ができました。関係して下さった方々皆様に感謝申し上げます。体験記を書くことで今後このプログラムを利用する方々の参考になればと思います。

短期留学準備について

年度内という条件で、先方のアポイントを取るの早ければ早いほどいいと思います。私の場合は、プログラム決定が10月頃で行き先が決まったのが11月頃と記憶しています。そこから準備をして2月中旬に出発となりました。行き先に関しては、自分の博士論文が定位放射線関係であったことや、昨年がん治療認定医をとってそこらへんに知識と業績があることから、それ関係の施設を核としました。しかしながら、やはり脳外科医として手術に関する経験も深めたいということでメンターの先生方がコーディネートしてくださいました。

スイスという国家

国の公用語が4か国語あり、ドイツ語圏、フランス語圏、イタリア語圏などに分かれていることにまず驚いた。スイス西から東に鉄道で走るとある地点から車内アナウンスがドイツ語からフランス語に変化するのわかった。実際に触れあった人たちも英語を含む2-4か国語を喋っていた。旅行者にとってはコミュニケーションがとりやすい環境であった。

物価は日本より高いが夜も安全で、人もみんな親切であった。

アーラウ州立病院 放射線腫瘍科（2月15日－19日、3月9,10日）

チューリッヒ近郊にあるこの病院の Guest doctor (Gast Arzt)として籍をおいた。スイスにある州立病院でも最大級の病院である。この病院の Prof.Niloy が窓口となり他の病院を訪問することができた。Prof.Niloy のリサーチの手伝いや脳外科との Tumor board 参加、脳腫瘍治療・治療計画の見学参加をおこなった。最終日の朝カンファで、皆の前で自分のこれまでの研究内容について英語でプレゼンテーションしてディスカッションする機会をもった。



病院での名札



お世話になった Prof.Niloy と

アーラウ州立病院 脳神経外科（2月22日－26日）

第2週に訪問した脳神経外科は、年間手術数が約2300件とスイスでも最大級の手術数をほこっている。チューリッヒ大学脳外科の元教授の日本人脳外科医師もときどき手伝いにきていた病院である。手術モダリティーは術中MRI、術中血管撮影、ナビゲーションなどなんでもあるような状態で、疾患も腫瘍、血管障害、脊椎などなど何でもやっているアクティビティーが高かった。

私は、約半分ぐらいの手術に第1助手もしくは第2助手として手洗いして手術参加することができた。国は変わっても脳外科医のキャラクターは日本とおなじで、数多い手術を迅速にこなしていた。非常に進行した症例が多く、それらを直近で経験することができたので、自分の中での難しい症例に対する抵抗感もすこし払しょくすることができた。しかしながら、技術的には日本とそれほど差があるとは感じず、日本のように症例が少なくとも一例一例を大切に治療することの大切さも感じました。

ポールシェラー研究所 陽子線センター (2月29日-3月4日)

スイスにおける自然科学、工学に関するスイス最大の研究センターで、国際的にも有名な研究機関です。その中の1施設として陽子線センターがあります。私と同時期にもフランスやアメリカから留学生がきていました。この施設で、治療施設見学や治療計画作成体験、カンファレンス参加などをしました。このころには英語も慣れて、ディベートでもすこし自分の意見を英語で言うことができました。患者さんは、イギリス、メキシコ、オーストラリアなど様々な国からきていました、患者さんに応じて言語を使い分けていることが印象的でした。



ポールシェラー研究所の先生方との会食風景

チューリッヒ大学病院 放射線腫瘍科 (3月7日)

スイスに4つしかない大学病院の1つで、スイスの東側ドイツ語圏にある。脳外科とのTumor Bordに参加し、様々な難易度の高そうな症例がたくさんあり、アクティビティーを感じた。元脳神経外科教授であった日本人の名がカンファででてきて、いまだに影響力をもっていることに感銘した。講師の先生方がマンツーマンで丁寧に治療を説明してくださった。もうすこし時間があれば、脳外科も回って見たかったです。

ローザンヌ大学病院 放射線腫瘍科 (3月8日)

スイスの西側のフランス語圏にあり、病院の公用語はフランス語でした。脳外科とのTumor Boardに参加、施設見学、多くの医師と一日同じ行動をしました。多くのモダリティーをもっている印象でした。

観光について

週末はフリーであったので、ベルニナ登山鉄道乗車（アルプス山脈、終着点はイタリア）、ザンクトガレン大聖堂、チューリッヒ博物館、マッターホルン、時計博物館、ジェノバで開催していた欧州モーターショー、ベルンの街並み、オリンピック博物館などをまわった。鉄道が発達しており、かつ自然と古い町並みに恵まれた国で自然観光、都市観光するには最高であった。

最後に

様々な施設をまわることができたので、結果として飽きることなく1か月楽しむことができました。今後も連絡を取りあえる海外の知人ができたことも今後の宝になりました。今後ももし機会があれば国際的な交流もしていきたいと思います。